

語り芝居 面白きこともなき世を面白く 野村望東尼 想

11月26日(土)に長州の志士高杉晋作と筑前の歌人野村望東尼 今に甦る感動の物語「面白きこともなき世を面白く 野村望東尼 想」と題して語り芝居を上演しました。

15役を一人で演じた舞台女優の岩城朋子氏は、功山寺決起で雄叫びをあげる高杉の勇ましきから、正妻のまさや愛人うのをはじめ女性たちの艶っぽさやあどけなさまで巧みに演じ分けておられました。高杉家の肝焼き息子だった晋作にとつて、望東尼は母のように温もりのあるかけがえのない存在だったであろうことをイメージできました。

また、前説と後説に高杉晋作の語り人亀田真砂子氏の語りがありました。時代背景を丁寧に説明され、菜香亭の大広間が一気に幕末の動乱の舞台になったようでした。

望東尼という新しい視線から作られたお芝居…。幕末の志士達が生き生きと甦ったように思いました。



15役を声色をかけて演じ分けた岩城さん。迫力でした。



高杉晋作を通して歴史を語る亀田さん。



夜、ライトアップされた菜香亭の庭をバックに幻想的な雰囲気。

望東尼の生涯



野村望東尼(山口県文書館)

野村望東尼は文化3年(1806)福岡藩士の娘として生まれました。名はもと。同藩士野村貞貴と結婚し、ともに和歌の道に入りました。のち家督を子に譲って夫婦で博多の後背地にある平尾山荘に隠居しました。

夫を亡くすと得度剃髪(とくどてい)はつし、招月望東禅尼となりました。

文久元年(1861)師匠を訪ねて上京した際に攘夷で騒然とする世間を知り、平尾山荘に帰ってからは、追われる勤皇の志士をよく匿いました。高杉晋作もその一人です。福岡藩の勤皇派が弾圧されたとき、望東尼は玄界灘の姫島の牢屋に流されます。このとき晋作が手配して牢屋から脱出させて下関に迎えました。

望東尼は高杉晋作の最期を看取ったあと、毛利家に厚遇され、山口に移りました。慶応3年(1867)、鳥羽・伏見の戦いで上京する長州藩軍の戦勝祈願に防府天満宮で7日間の断食祈願を行った末、体調を崩し防府で亡くなりました。



山口三名水の1つ・柳の水

野村望東尼は山口の湯田や、藩庁裏手の山奥の滝村というところに一時期住んでいました。その証拠に和歌をよく詠んでいます。その一つ、「滝村の水上清き柳水」

さてこそ末も濁らざりけり」柳の水は、大内氏の時代より山口三名水の一つと言われた美味しい水が湧きだすところで、現在も飲むことができます。望東尼が滞在した家はこの近くでした。望東尼も飲んだ水をぜひ味わってください。

新進アーティストサポート事業 アートのおもてなし 2016

11月9日(水)〜13日(日)、菜香亭全館でアート展を開催しました。山口で活躍中の10人3グループのアーティストが大集結。ひょうたんや羊毛フェルトアート、和紙や竹芸など天然素材からなるものを中心に現代アートまで。県外のお客様も山口発のアートに感激しておられました。これからも目が離せません。



写真(向田美保)



竹芸 (調 喜美子)



ひょうたんアート(徳万隆良・絢香)



現代アート(YICA)



書アート (村上真実)



フェルトアート(郭でんこう)



写真・小説・切り絵・絵画・アクセサリーなど (山口大学創作サークル かしゃころ。)



和紙人形(富永嘉子)



水彩画(向田秀敏)

日本のクリスマスは山口から サビエルからの贈り物 2016 羊毛フェルトで作ってみよう!

12月5日(土)にワークショップを開催しました。講師は羊毛アーティスト 郭伝瀨氏です。専用の針で羊毛をちくちくと刺して形を作っていきます。来年の干支はとり…ということにちなんでペンギンのマスコットを作りました。



中国北京出身。山口県立大学卒業。2度自転車で行った日本一周の旅に、現在山口市徳佐を拠点に旅人羊毛フェルト作家として活動中。



なごやかな雰囲気、すてきなひとときを過ごされました。



カラフルなマフラーや帽子でかわいいペンギンが勢ぞろい!

12月上旬から菜香亭の大広間で着物カフェを開催しました。もうすっかり馴染みになりました。かつてはこんな和服美女が菜香亭の一時代を華やかに彩ったことでしょう。

かわいい! 大正レトロ風 キモノカフェ

